

農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は、4.7%（平年3.1%）であり、平年よりやや高かった（図1）。
- (2) 7月下旬の巡回調査（148圃場）では、県南部で発生圃場率が平年より高かった（図2）。

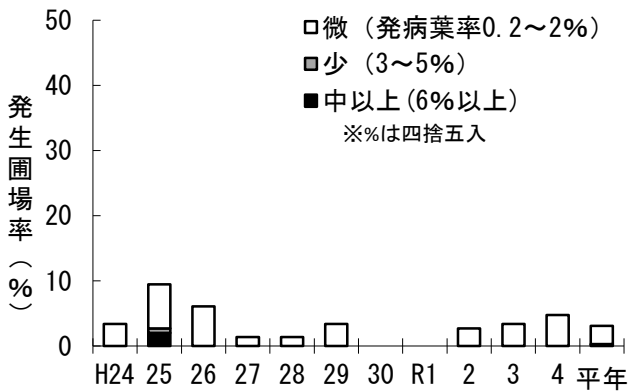


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

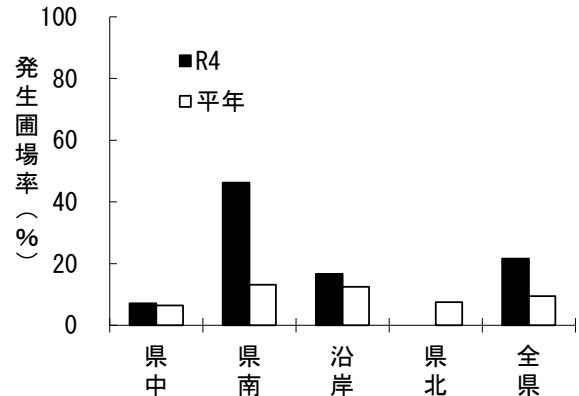


図2 葉いもち発生状況（7月下旬）

※100株調査で発病葉が認められた圃場率

2 紋枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、8.8%（平年18.6%）であり、平年より低かった（図3）。

3 ばか苗病

- (1) 7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、6.8%（平年9.2%）であり、平年並だった（図4）。

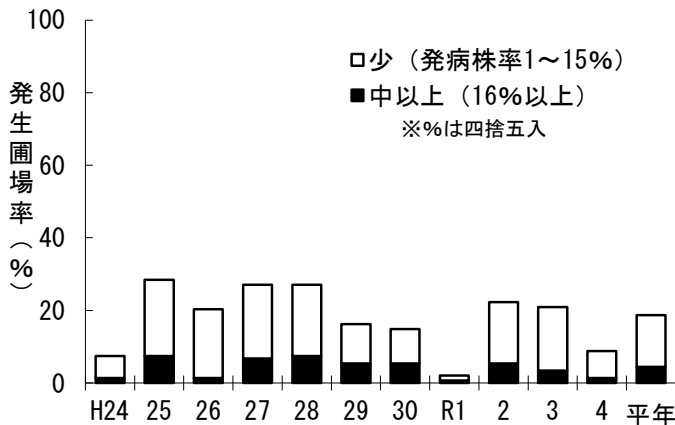


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）

※病斑が第4葉鞘以下の発病を含む

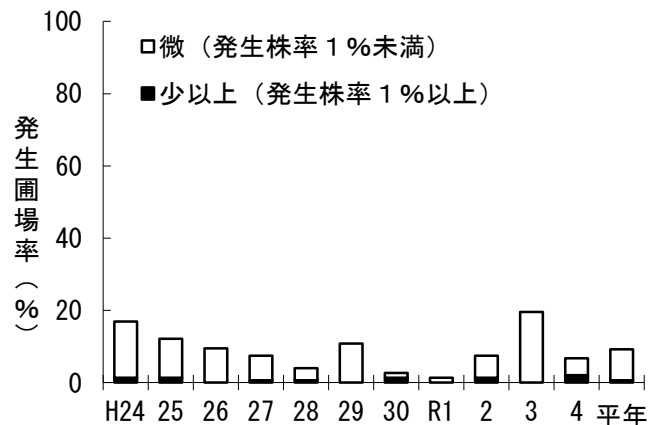


図4 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

4 ごま葉枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、7月第5半旬にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り頭数が増加した（図5）。
- (2) 7月下旬の水田畦畔におけるすくい取り調査（74圃場）では、発生圃場率は60.8%（平成46.6%）で平年よりやや高かったが、1地点当たりのすくい取り頭数は7.4頭（平成8.6頭）であり、平年並だった（図6）。
- (3) 特に、イネ科雑草が出穂している畦畔では、アカスジカスミカメ成虫がすくい取られている。

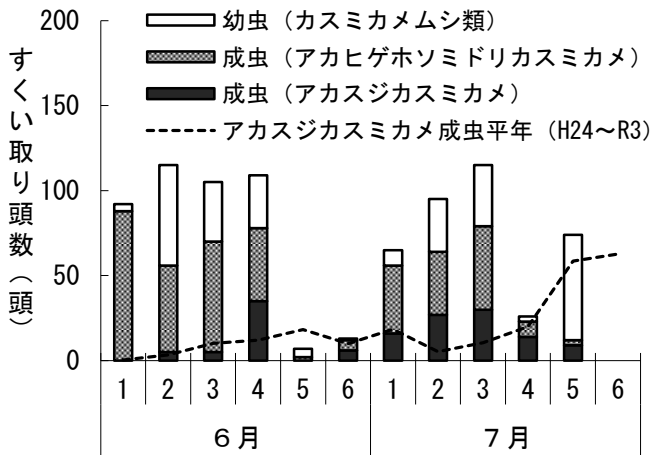


図5 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第5半旬現在、往復20回振）

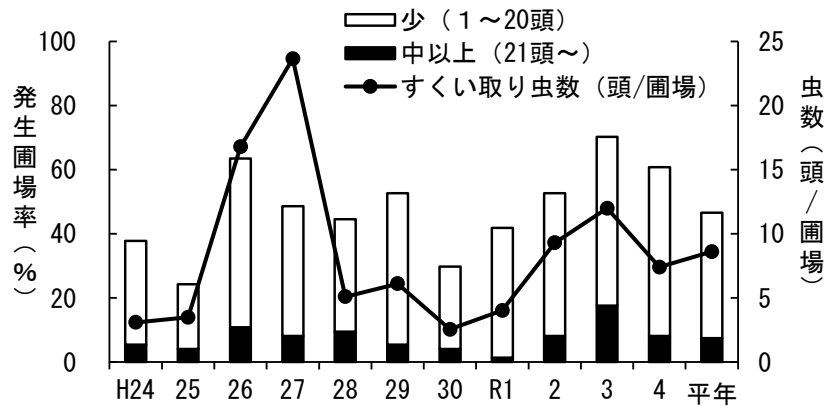


図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振）

6 フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- (1) 7月の本田すくい取り調査（39圃場）における第2世代幼虫の発生圃場率は、7月上旬は12.8%（平成14.1%）で平年並、7月下旬は15.4%（平成26.9%）で平年より低かった（図7）。

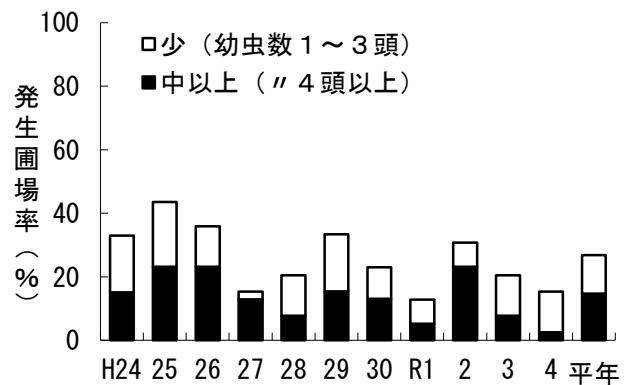
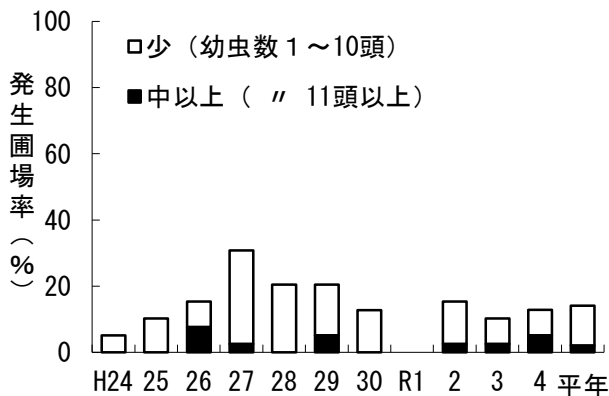


図7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫の発生圃場率の年次推移（7月上旬、本田すくい取り、往復20回振）

7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、セジロウンカの発生圃場率は2.6%（平年0.5%）、ヒメトビウンカの発生圃場率は10.3%（平年2.6%）であり、ともに平年より高かったが、発生程度の高い圃場は確認されなかった（図8）。

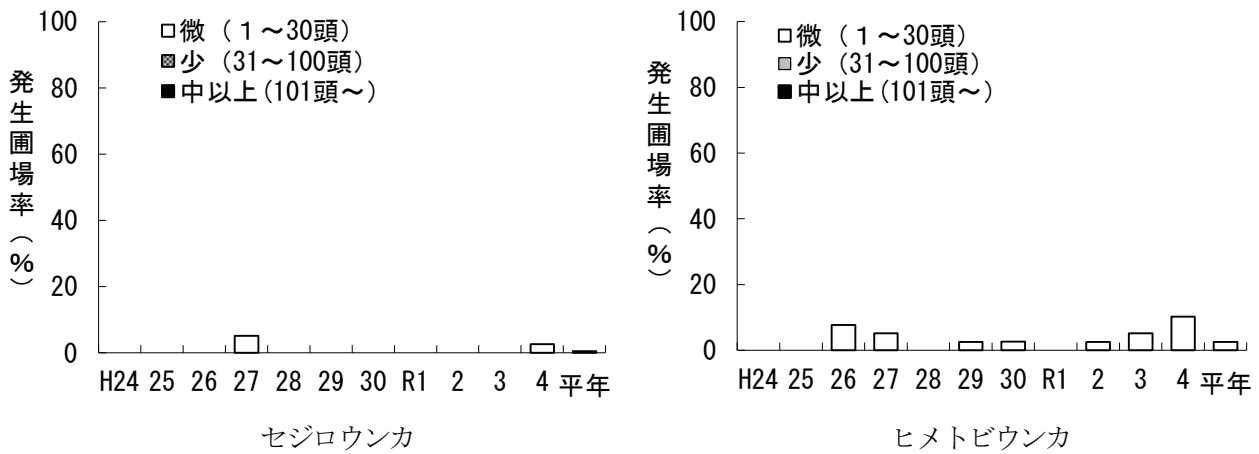


図8 ウンカ類の発生圃場率の年次推移
（7月下旬、本田すくい取り、往復20回振）

8 コバネイナゴ

(1) 7月の本田すくい取り調査での発生圃場率は、7月上旬は66.7%（平年62.8%）、7月下旬は74.4%（平年75.2%）でともに平年並だった（図9）。

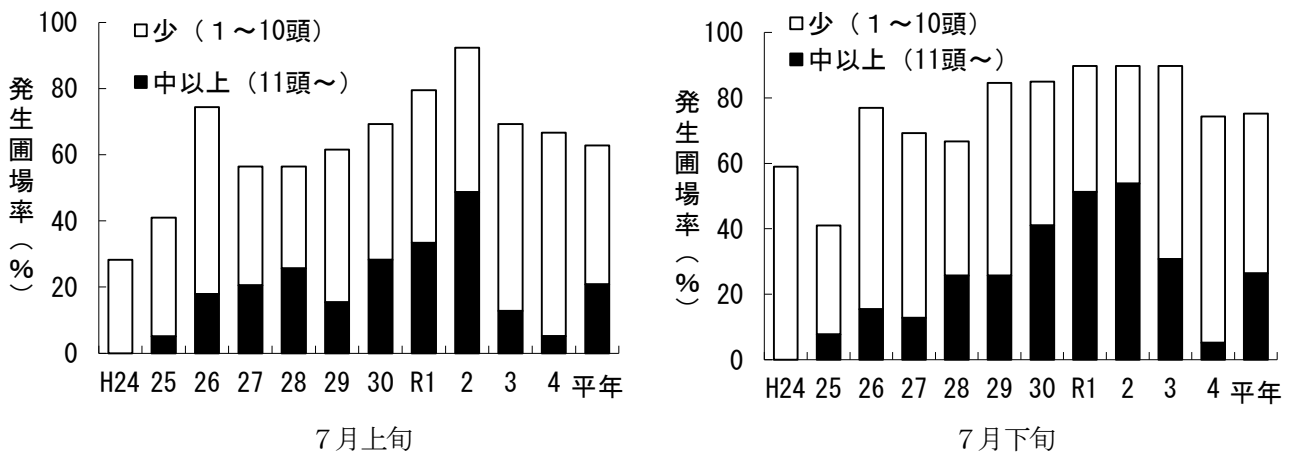


図9 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移
（7月上旬、本田すくい取り、往復20回振）

9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった（データ省略）。

農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における初発は例年よりやや遅い6月第3半旬となり、発病葉率は6月第6半旬まで平年より低く推移したが、7月第1半旬以降に増加した（図1）。
- (2) 7月後半の巡回調査でのふじの発生圃地率は32.3%（平年44.2%）で平年よりやや低かった（図2）。また、発生度は8.9（平年15.3）で平年よりやや低かった（図3）。

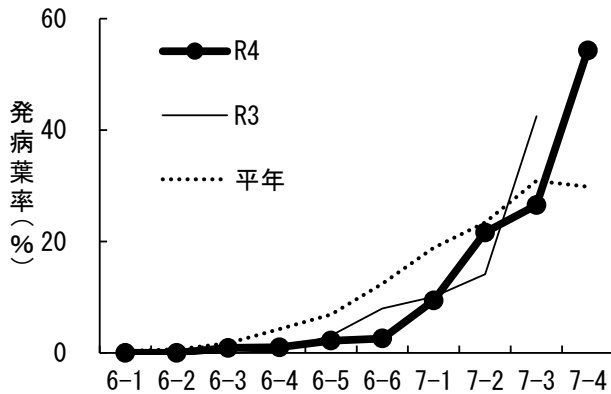


図1 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（月-半旬、スターキングデリシャス、新梢葉）

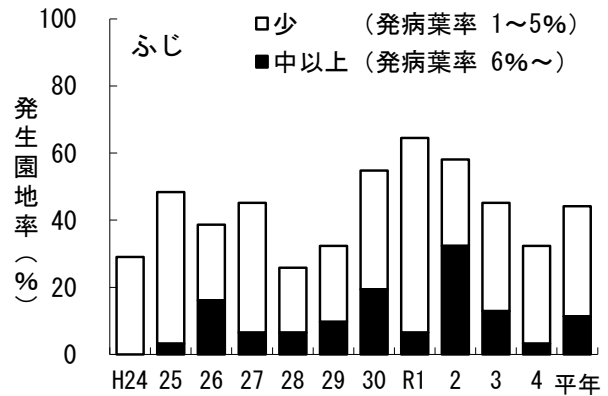


図2 斑点落葉病の発生圃地率の年次推移（ふじ、7月後半、徒長枝上位10葉）

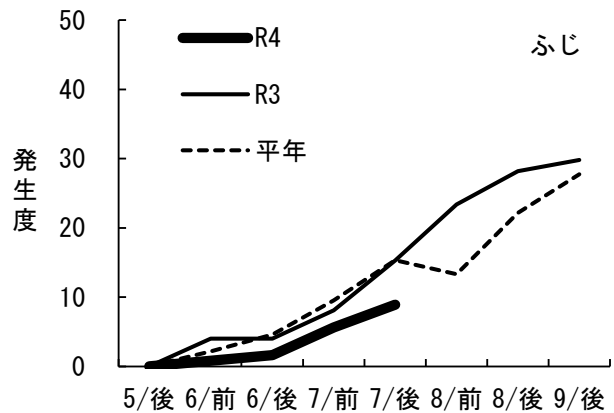
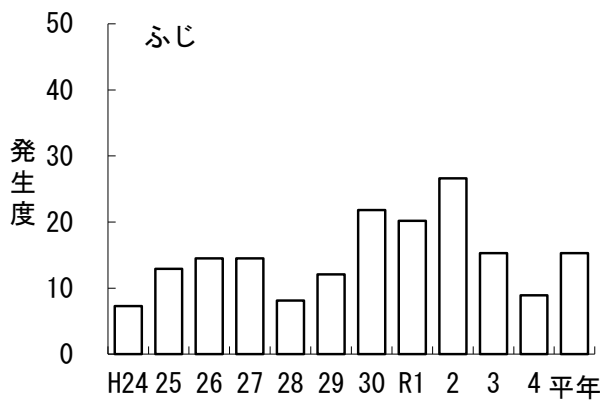


図3 斑点落葉病の発生度（ふじ、左図：7月後半の年次推移、右図：時期別の推移）

※1 「発生度」 = (4A + 3B + 2C + D) × 100 / (調査圃地数 × 4)、A: 発病葉率21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の圃地数

※2 5月後半は果叢葉、6月前半~7月前半は新梢葉全葉、7月後半以降は徒長枝先端10葉による調査。

2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃地率は12.9%（平年8.7%）で平年よりやや高かった（図4）。
- (2) 地域別では、県中部で発生が確認された（図5）。

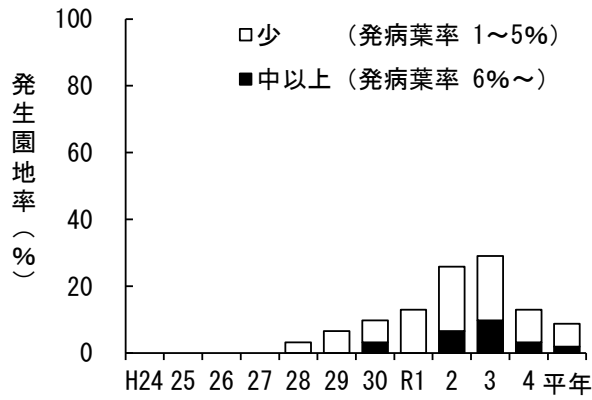


図4 黒星病の発生園地率の年次推移 (7月後半、徒長枝葉)

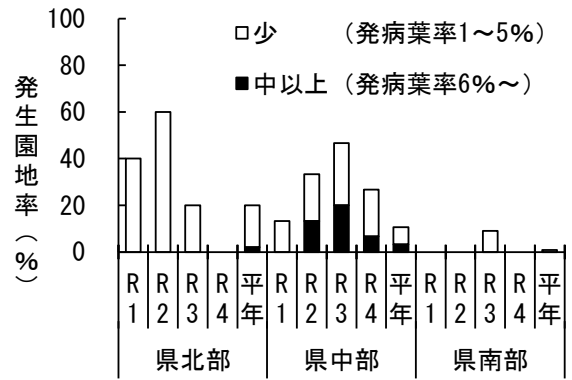


図5 黒星病の地域別発生園地率 (7月後半、徒長枝葉)

3 褐斑病

- (1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における果叢葉における初発は例年より早い6月第1半旬となった。発病葉率は平年より高く推移した (図6)。
- (2) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は9.7% (平年7.1%) で平年よりやや高かった (図7)。
- (3) 地域別では、県中部及び県南部で発生が確認された (図8)。

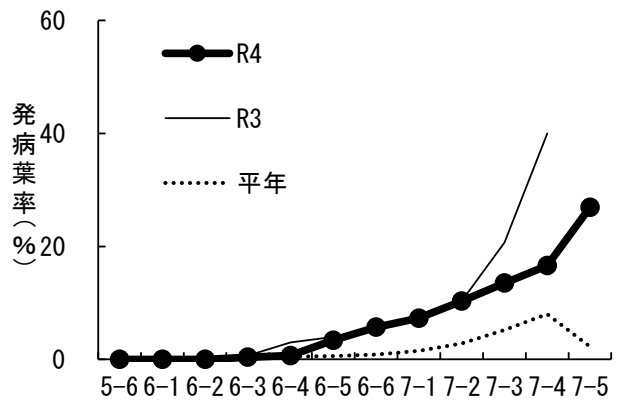


図6 基準圃場における褐斑病の発病葉率の推移 (月-半旬、ふじ、新梢葉)

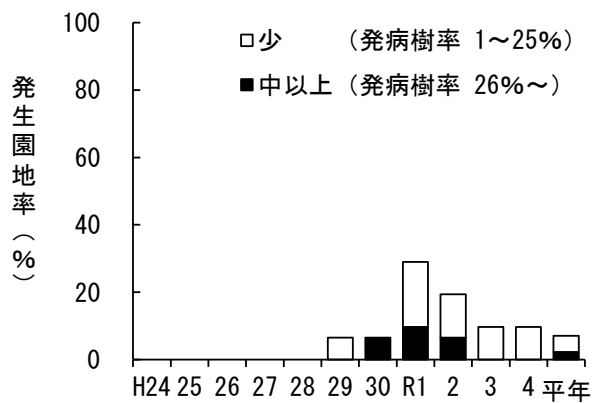


図7 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月後半)

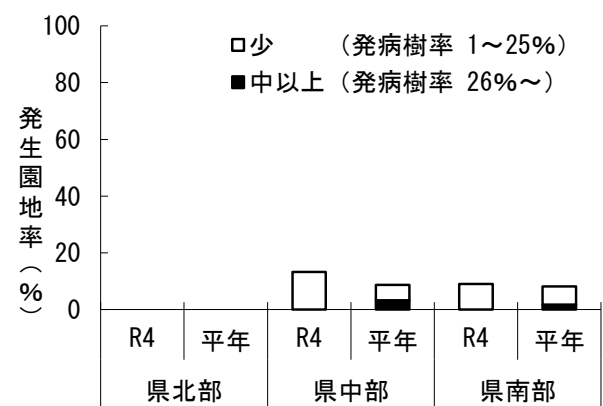


図8 褐斑病の地域別発生園地率 (7月後半)

4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地率は9.7% (平年6.1%) で、平年よりやや高かった (図9)。

5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生は確認されなかった (平年17.7%、図10)。

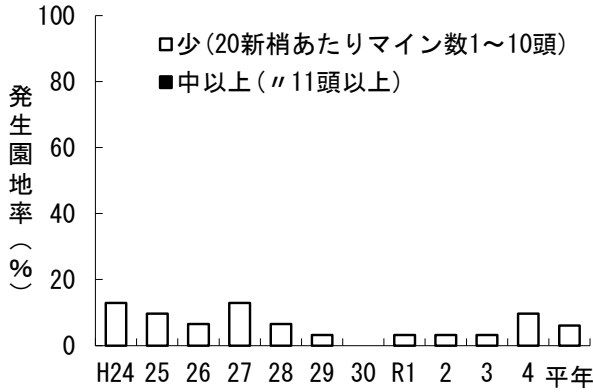


図9 キンモンホソガ第2世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

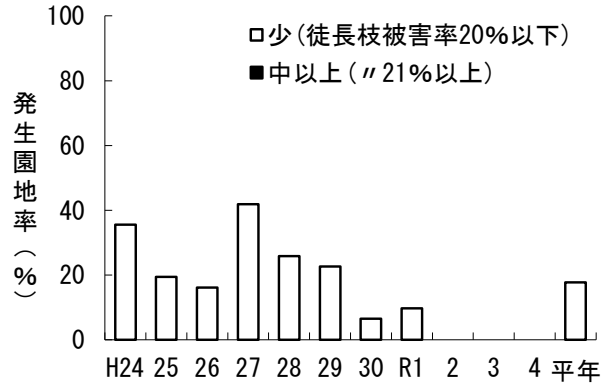


図10 ギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は目通り51.6% (平年19.0%)、樹上部37.9% (平年19.2%) で、ともに平年より高かった。また、発生程度が中以上は目通り19.4% (平年4.5%)、樹上部17.2% (平年7.0%) で、ともに平年より高かった (図11)。

(2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、6月後半以降、平年より高く推移している (図12)。

(3) 目通りの地域別発生園地率は、すべての地域で発生程度の中以上の園地がみられた (図13)。

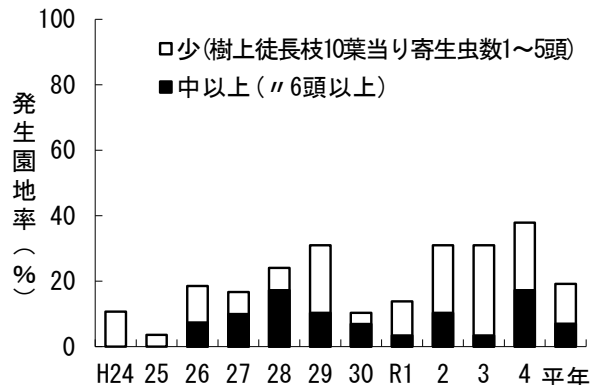
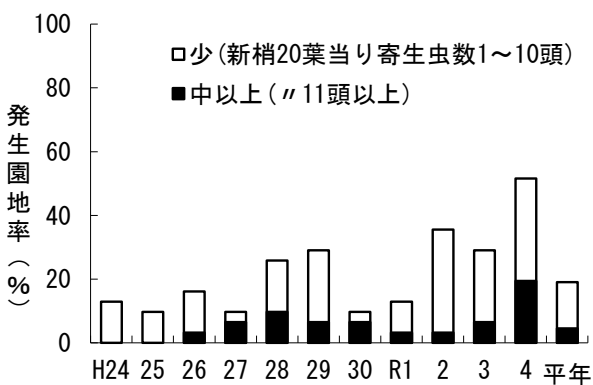


図11 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半、左：目通り、右：樹上部)

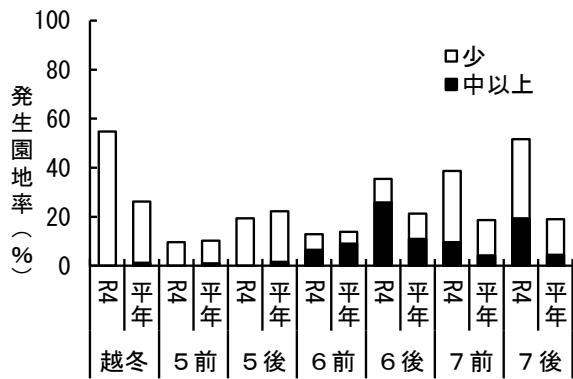


図12 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

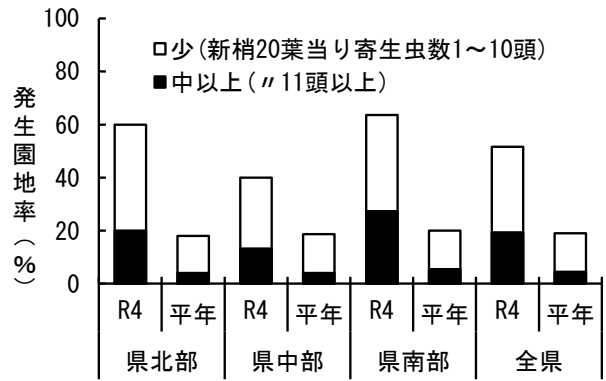


図13 リンゴハダニの地域別発生園地率 (7月後半、目通り)

7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通りで 35.5% (平年 42.0%)、樹上部 37.9% (平年 35.5%) で、ともに平年並であった。また、発生程度が中以上は目通り 16.1% (平年 14.3%)、樹上部 13.8% (平年 13.2%) で、ともに平年並であった (図14)。
- (2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、平年並に推移している (図15)。
- (3) 目通りの地域別発生園地率は、県南部で発生程度の高い園地が多かった (図16)。

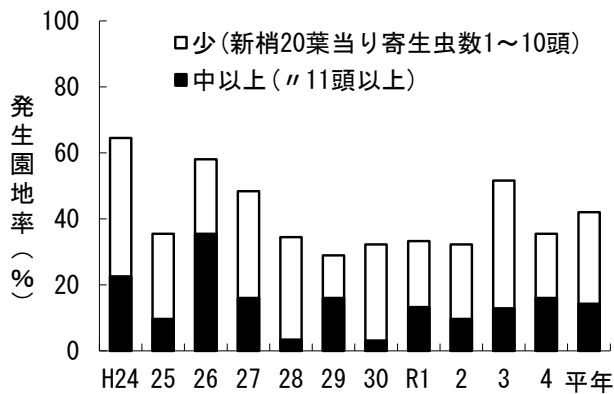


図14 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半、左：目通り、右：樹上部)

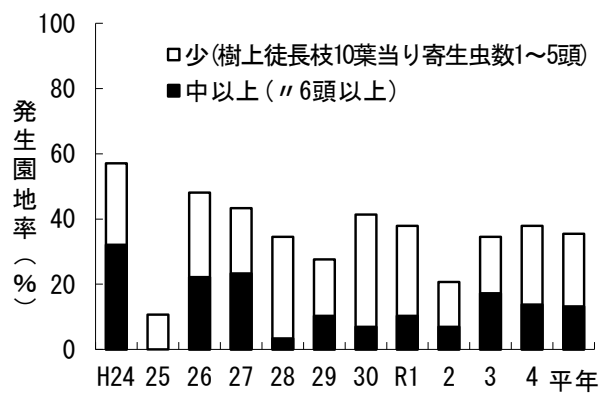


図15 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

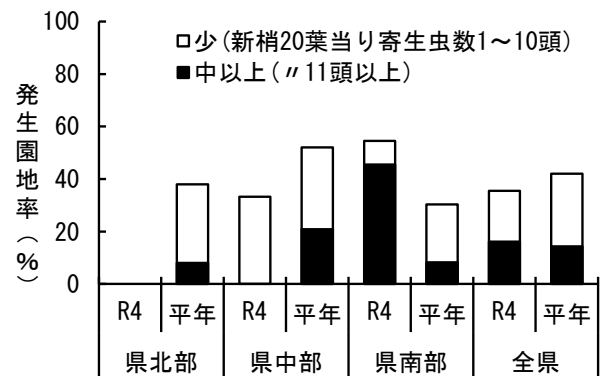


図16 ナミハダニの地域別発生園地率 (7月後半、目通り)

8 シンクイムシ類

(1) 7月後半の巡回調査でのシンクイムシ類の被害果は確認されなかった（平成0.3%、図17）。

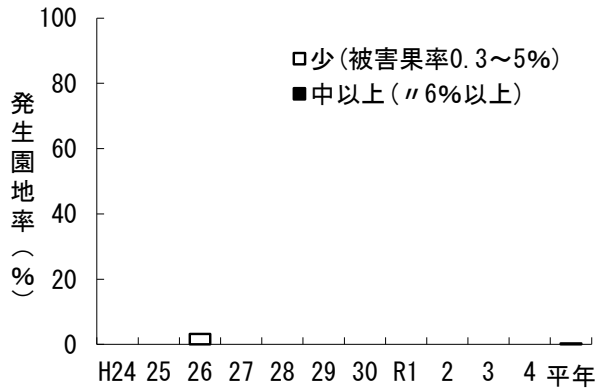


図17 シンクイムシ類の発生園地率の年次推移（7月後半）

9 果樹カメムシ類

(1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は32.3%（平成33.7%）で、平成並だった（図18）。

(2) 被害果の時期別発生園地率は、7月前半までは平成より高く推移したが、その後、平成並に推移している（図19）。

(3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃、現地で、ともに平成より低く推移している（図20、図21）。

(4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、平成より低く推移している（図22）。

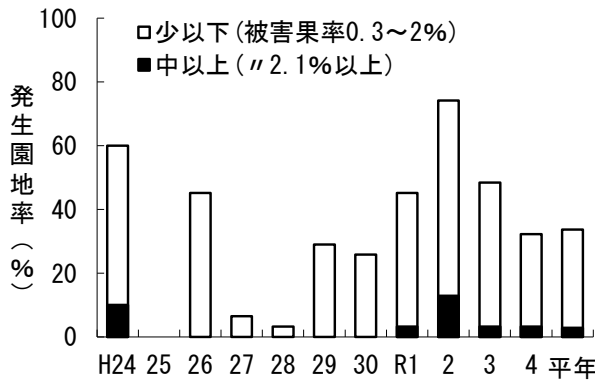


図18 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移（7月後半、ふじ）

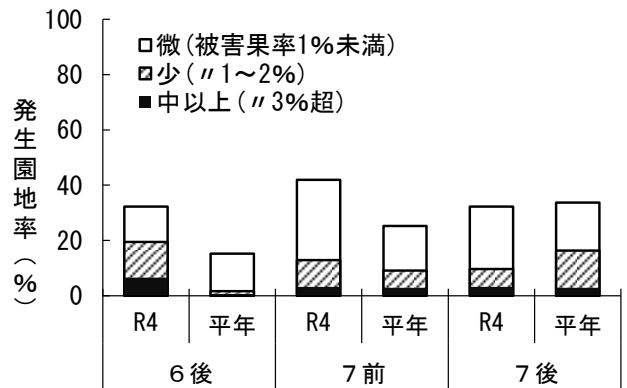


図19 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移（ふじ）

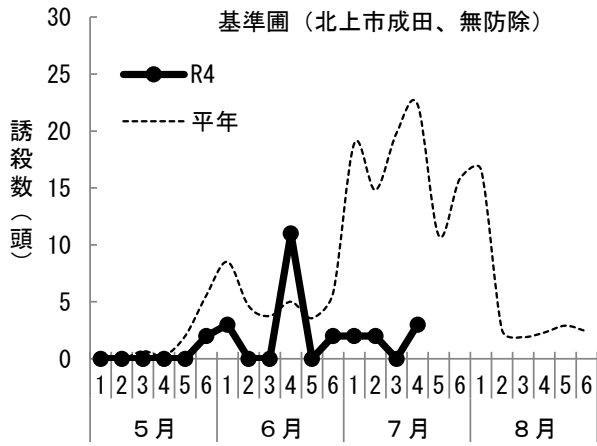


図20 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

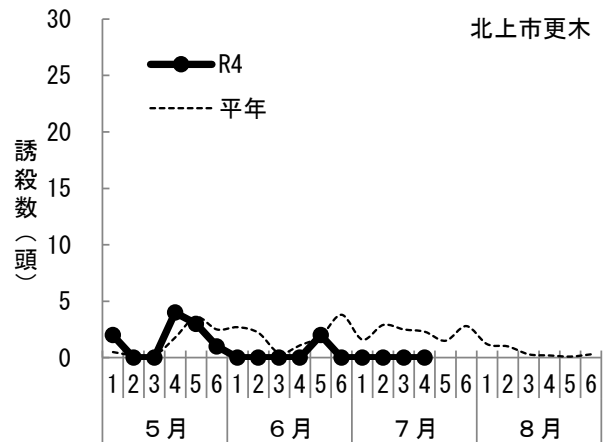
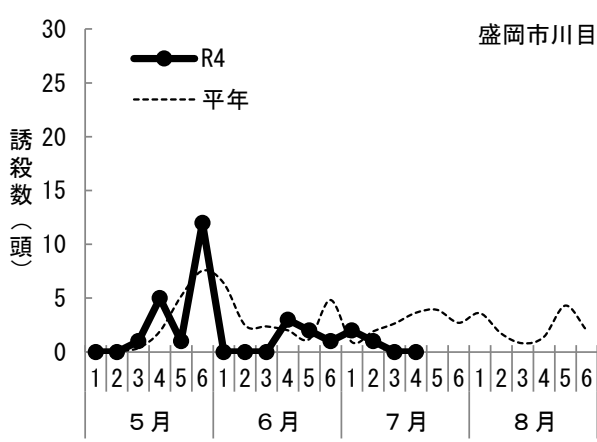


図21 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
(左：盛岡市川目、右：北上市更木)

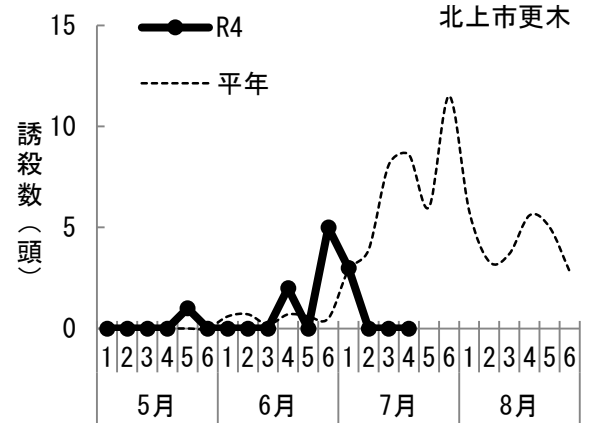
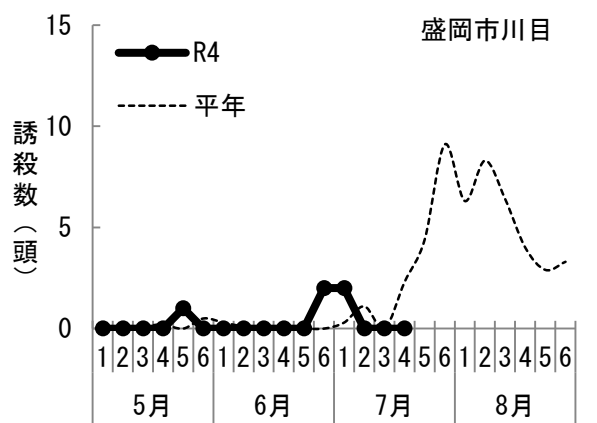


図22 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況
(左：盛岡市川目、右：北上市更木)

農作物病害虫発生現況情報（7月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は23.1%（平年30.0%）で、平年並であった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は15.4%（平年7.7%）で、平年よりやや高かった（図2）。

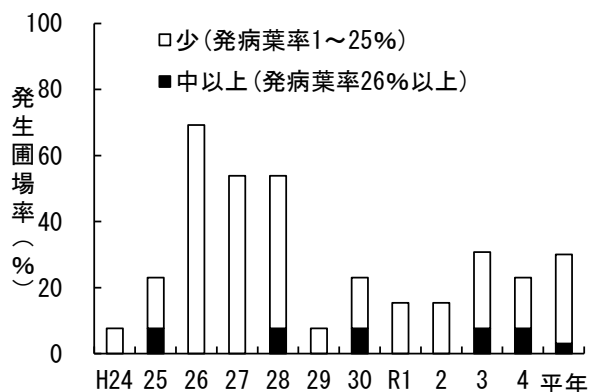


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

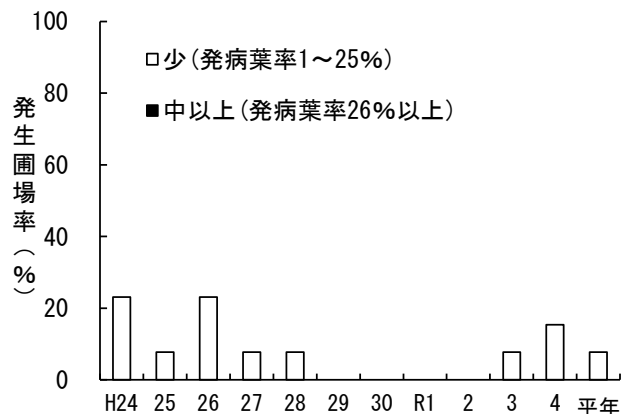


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は46.2%（平年22.3%）で平年より高かった（図3）。

4 黒星病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年9.2%、図4）。

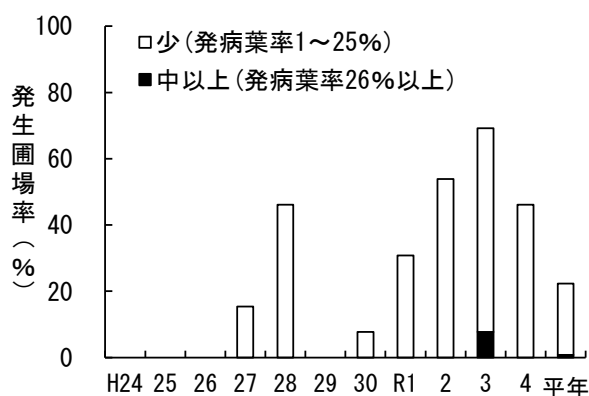


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

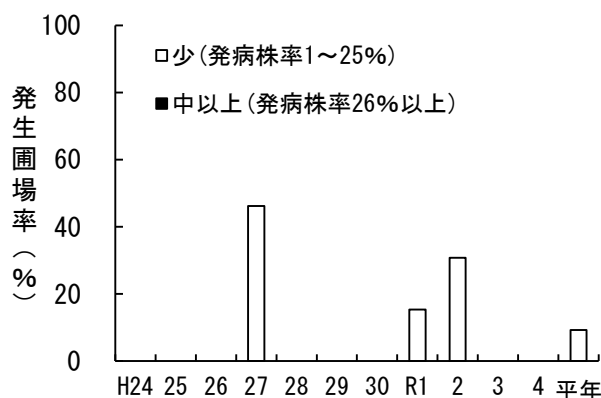


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

5 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年24.6%、図5）。

6 炭疽病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.8%（平年29.2%）で平年並であったが、一部で発生程度の高い圃場が見られた。（図6）。

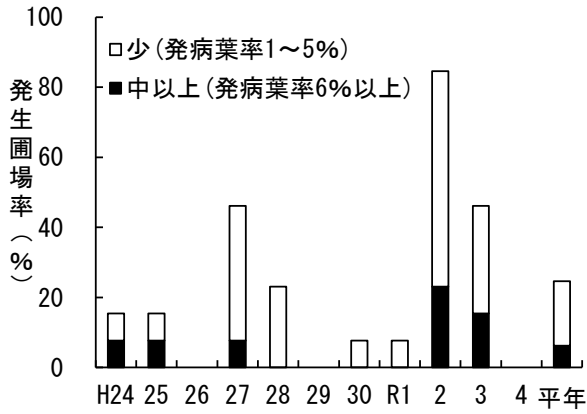


図5 褐斑病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

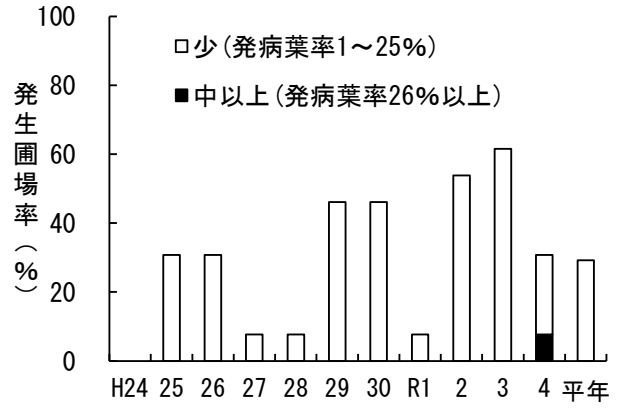


図6 炭疽病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

7 ワタアブラムシ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7%（平年17.7%）で、平年より低かった（図7）。

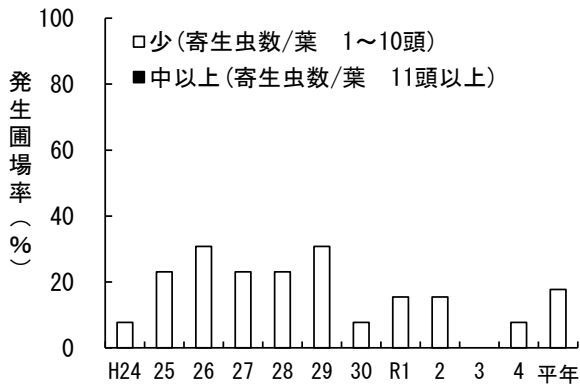


図7 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移
(7月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（7月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月第2半旬から第3半旬にかけてピークが見られた（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なく推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図3）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、産卵は確認されず、幼虫の発生圃場率は10.0%で平年より少なかった（産卵圃場率：平年36.1%、図4、幼虫発生圃場率：平年40.4%、図5）。

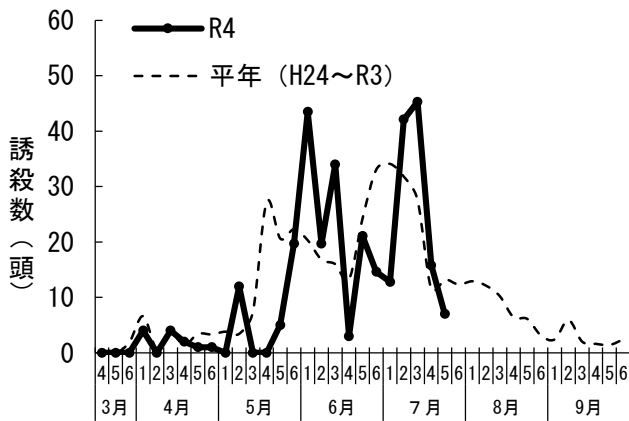


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

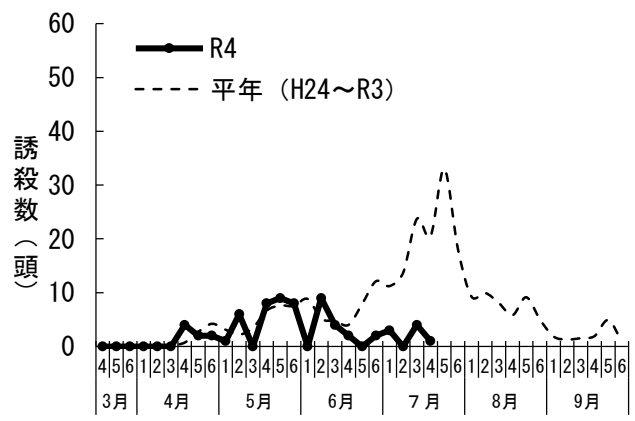


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

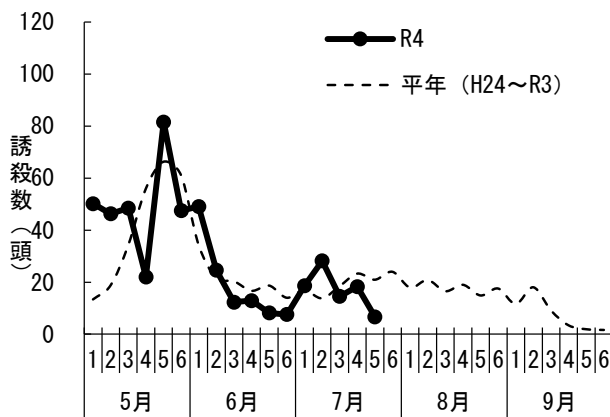


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

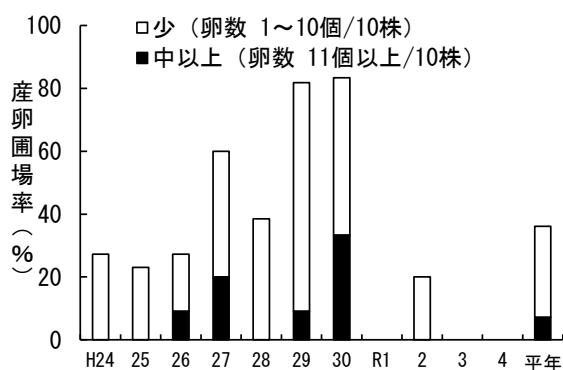


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

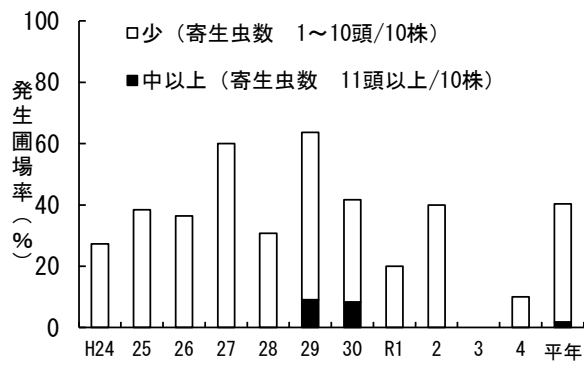


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、7月には確認されなかった（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月には確認されなかった（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月第2半旬に増加した（図8）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった（平年6.3%、図9）。

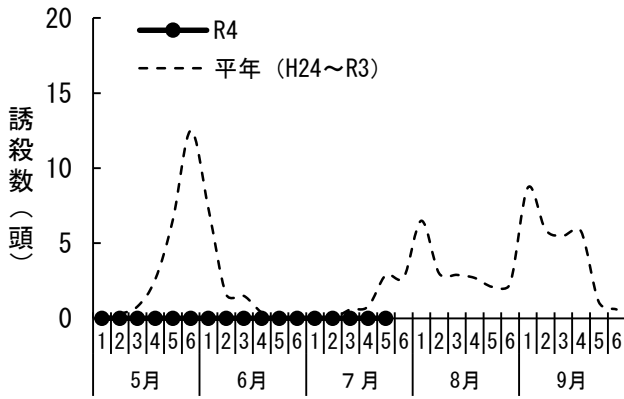


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

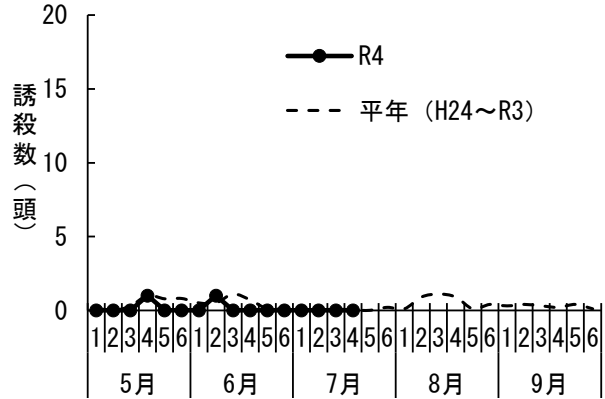


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

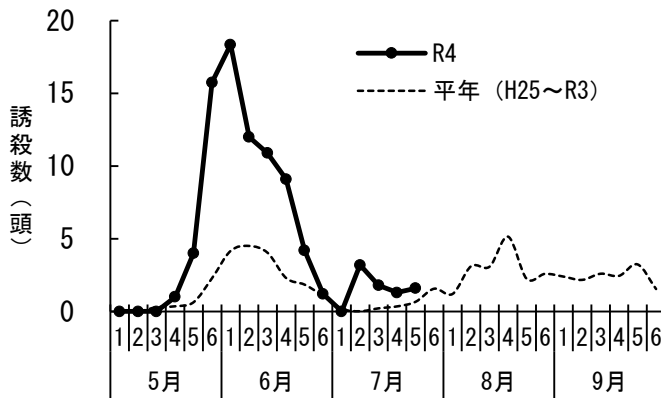


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

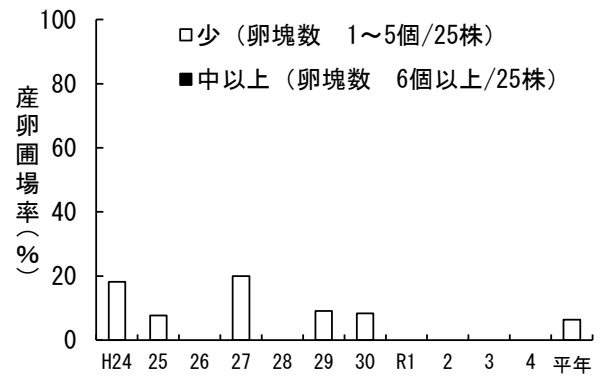


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月第3半旬に大きく増加した（図10）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月第3半旬に大きく増加した（図11）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりもやや多く推移した（図12）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は40.0%（平年16.0%）で、平年より高かった（図13）。
- (5) 幼虫の発生は、適期防除が行われている圃場では少なかった。

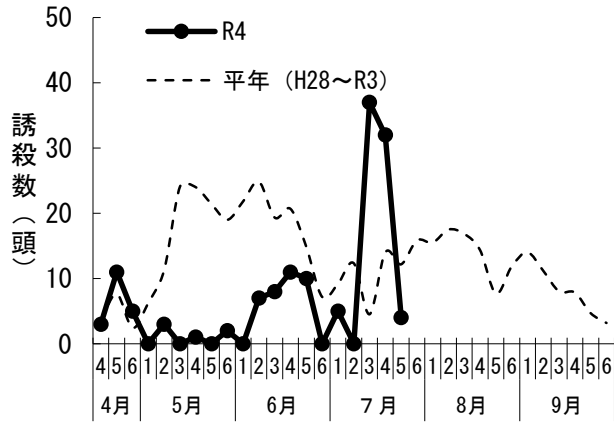


図10 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

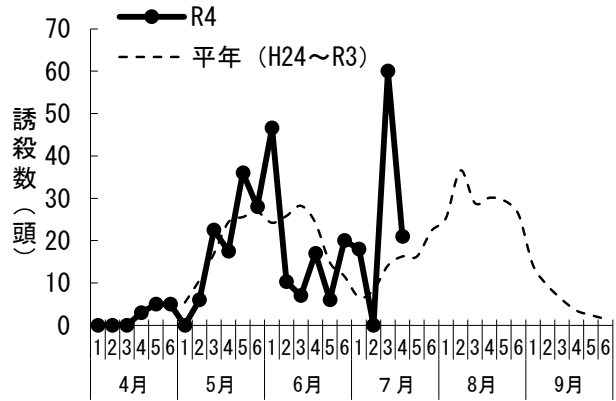


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

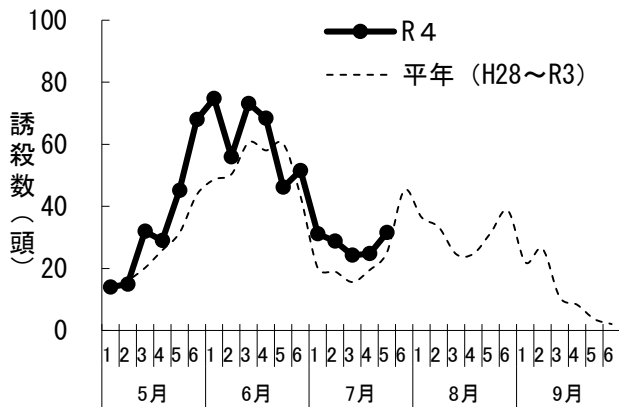


図12 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

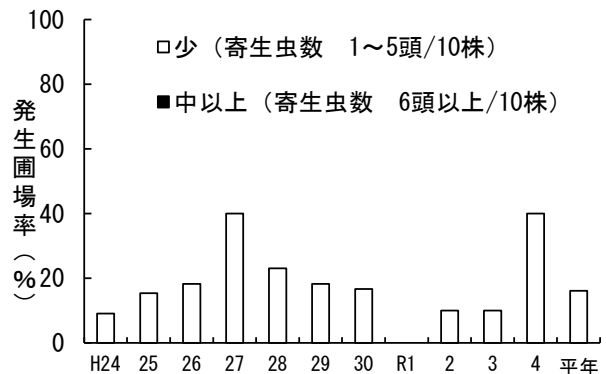


図13 ウワバチリョウ類幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

4 モンシロチョウ

- (1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は40.0%（平年30.9%）で、平年よりやや高かった（図14）。
- (2) 幼虫の発生は、適期防除が行われている圃場では少なかった。

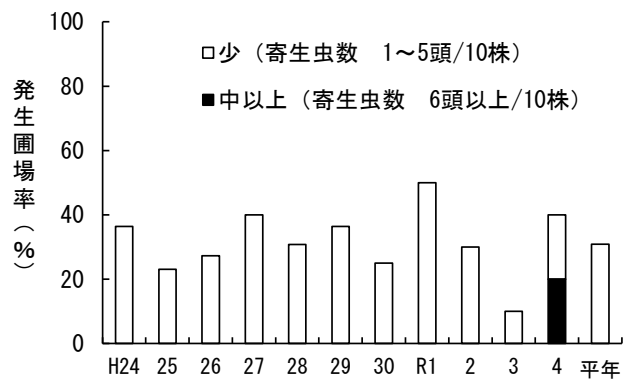


図14 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（7月） ねぎ編

1 さび病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年36.0%）であり、平年より低かった（図1）。

2 べと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年17.0%、図2）。

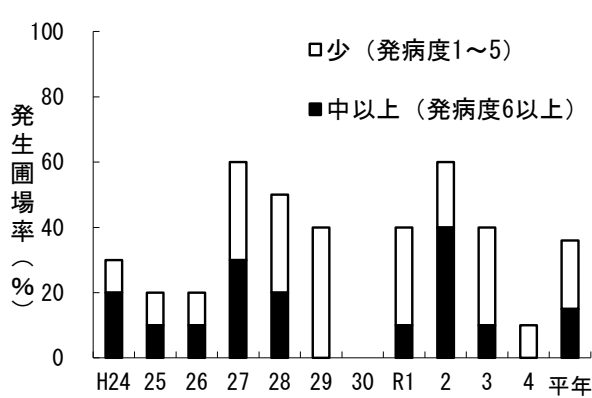


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

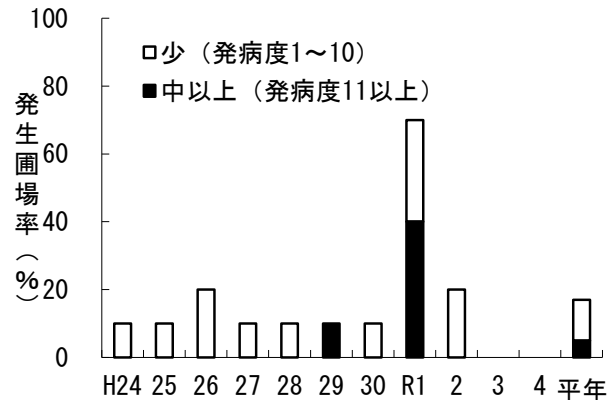


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年34.0%）であり、平年より高かった（図3）。

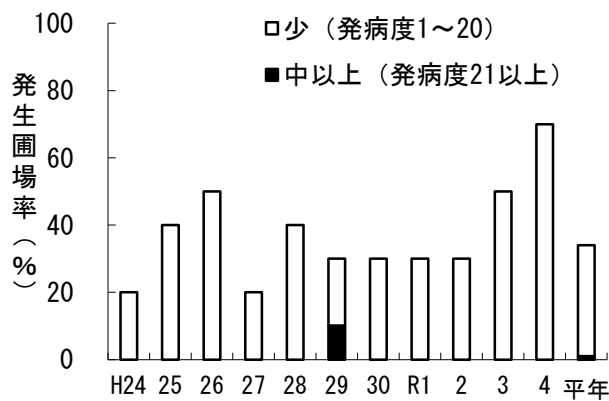


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

4 ネギコガ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は20.0%（平年37.0%）であり、平年より低かった（図4）。
 (2) 時期別の被害葉率は、7月上旬・下旬ともに平年より低かった（図5）。

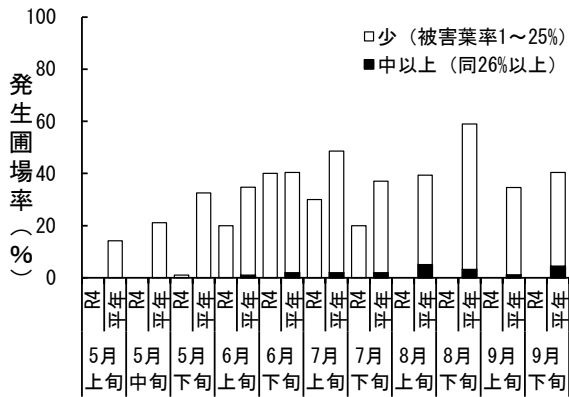


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

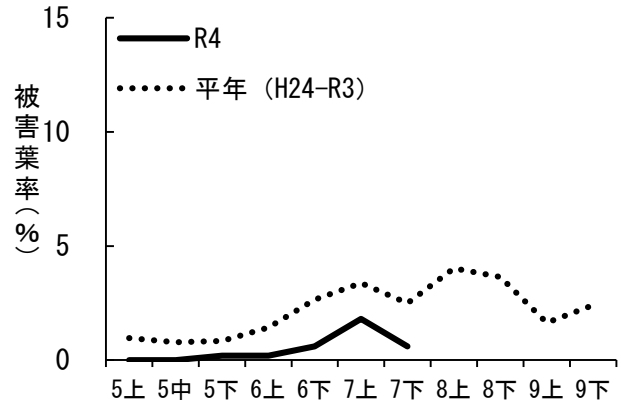


図5 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年62.1%）、被害程度中以上の圃場率は10.0%（平年19.4%）であり、ともに平年より低かった（図6）。
 (2) 時期別の被害度は、7月上旬・下旬ともに平年より低かった（図7）。

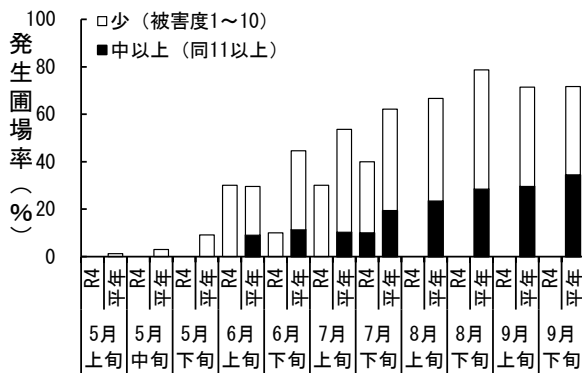


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

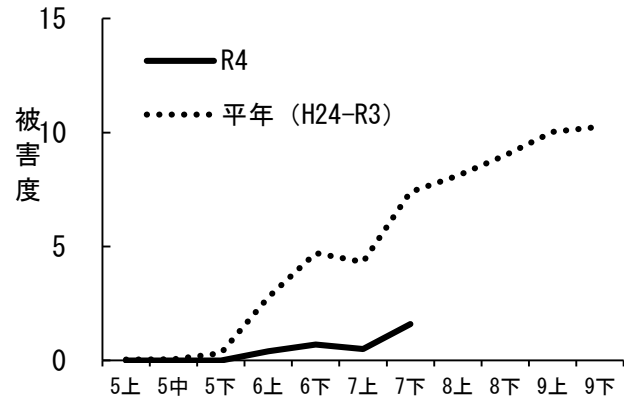


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

6 ネギアザミウマ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0% (平年88.0%)、被害程度中以上の圃場率は70.0% (平年46.8%)であり、ともに平年よりやや高かった (図8)。
- (2) 時期別の被害度は、平年並で推移している (図9)。

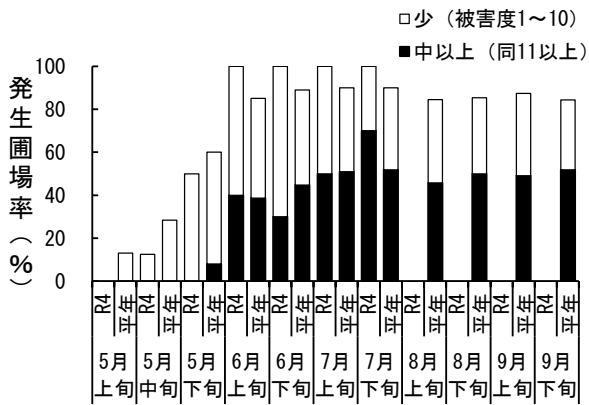


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

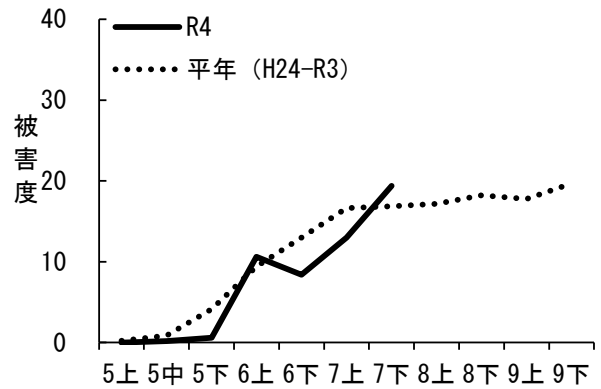


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（7月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.8%（平年28.0%）で、平年並であった。また、採花部では一部圃場で発生がみられ、発生圃場率は7.1%（平年1.4%）であった（図1）。

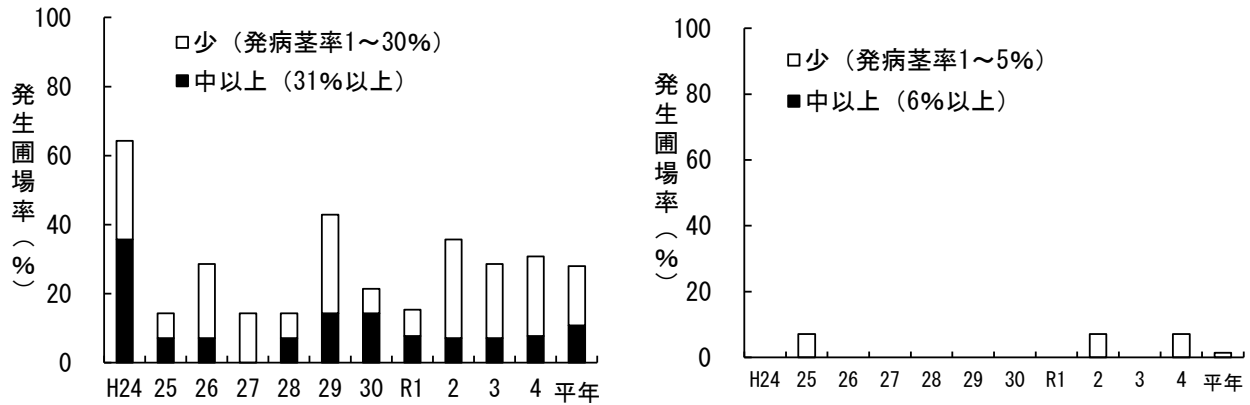


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：株全体、右：採花部、7月下旬）

2 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。

3 ハダニ類

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は15.4%（平年25.8%）で平年よりやや低く、寄生虫数の多い圃場（寄生虫数：101頭以上/80葉中）も確認されなかった（図2）。

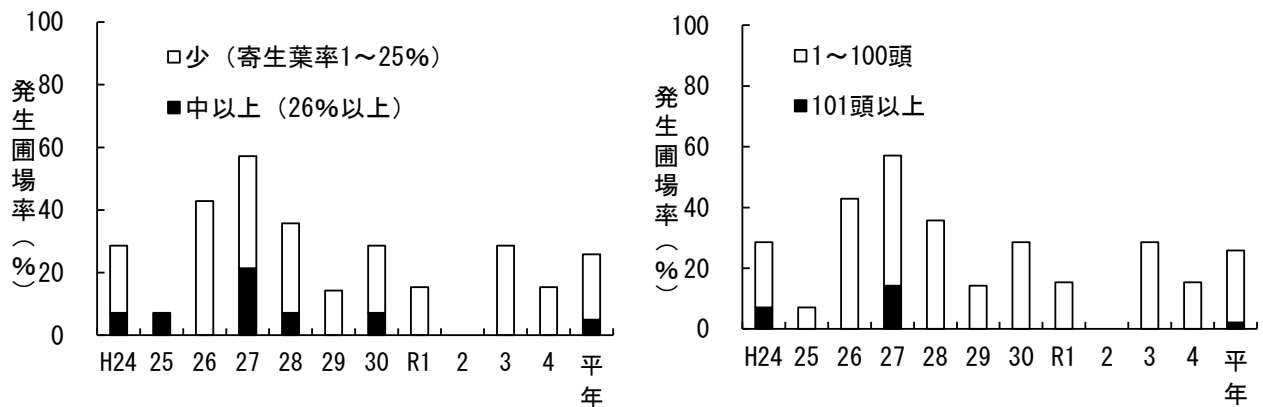


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、7月下旬）

4 リンドウホソハマキ

(1) 7月下旬の巡回調査では、潜葉痕の被害発生圃場率は7.7%（平年26.5%）で平年より低く、生長部および茎部の被害は確認されなかった（平年19.4%、図3）。

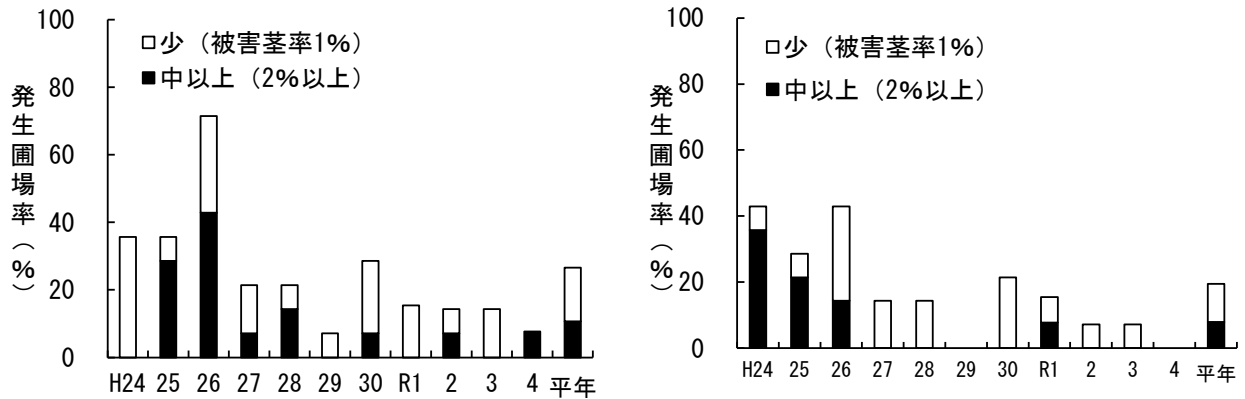


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部、7月下旬）

5 アザミウマ類

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年49.8%）で、平年よりやや低かった（図4）。

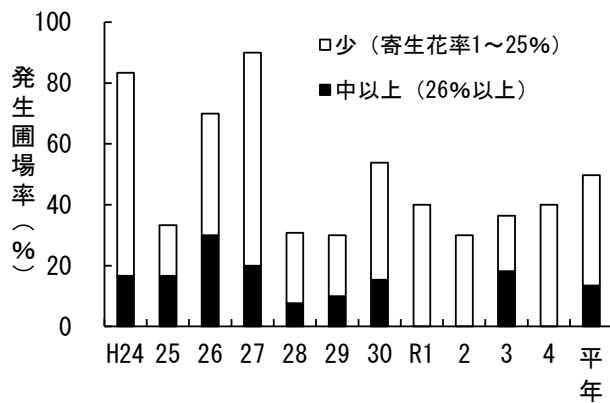


図4 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬）